

## 第一回血管生物若手研究会 報告

2015年2月6-7日の二日間、東京大学医学部医学部にて、第一回血管生物若手研究会を開催させて頂きました。本研究会は、原則として血管生物医学会の会員である、若手の研究者が主体となって会の準備から運営、開催に至るまでを自分たちで執り行うという形で行いました。企画をした経緯としましては、今年日本血管生物医学会との共催にて国際血管生物学会（IVBM）が京都にて開催され、これを機に日本でも海外に発信できる若手研究者を増やしたいということ、次回の血管生物医学会の学術集会まで期間が空いている等がありました。



今回は初回という事で模索段階の部分もありましたが、自身の研究をアピールしていきたい若手研究者が一堂に会して、それぞれの研究推進のために発表および意見交換の場を提供する。」という趣旨の基、日本全国から多くの先生方に参加して頂きました。一般演題：28題、short talk：3題、教育講演：2講演と期待して以上の演題が集まり、全員口頭発表の形式で、討論時間を充分にとり活発な意見交換を行いました。クローズの会である事に加えて、出席者が若手主体とい

う事もあり、発表内容は挑戦的でレベルの高いものが多く、屈託の無い活発な討論が激しく行われました。研究会の最後には、発表者全員による互選にて優秀発表者を選出しました。

また上武大学の渋谷正史先生・慶應大学の久保田義頭先生による教育講演も行われました。渋谷正史の講演では「血管生物学と私」というタイトルで、これまでに報告されている現象をより客観性を持ち検証した結果、新たな現象の発見に繋がったことを渋谷先生自身の研究を例に説明して下さい、さらに我々若手研究者に対して、研究者としての心がけを熱く語って頂きました。久保田先生は「網膜血管の発生における VEGF シグナルの役割」というタイトルで、最新論文の詳細な説明だけでなく、自身が血管研究を始め出した時に参加した国際学会の様子を写真を交えて説明してくれました。自身の研究成果を世界の著名な先生方に積極的にアピールすることの大切さを語り、日本の若手血管研究者に対して刺激を与えて頂きました。

最後になりましたが、本研究会は血管生物医学会の理事会および学術委員会の援助とご指導の下で開催することができました。今回は会の進行などに反省点もございましたが、ぜひ第二回以降も継続して開催していきたいと考えております。今回、ご参加を頂きました若手研究者の方々にもこの場を借りて感謝申し上げます。

(血管生物若手研究会事務局)



血管生物医学若手最優秀賞

木戸屋 浩康（大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野）

間石 奈湖（北海道大学 遺伝子病制御研究所フロンティア研究ユニット 血管生物学研究室）

神吉 康晴（東京大学 アイソトープ総合センター）

血管生物医学若手優秀賞

大澤 毅（東京大学 先端研 システム生物医学分野）

菊地 良介（名古屋大学 医学部附属病院 医療技術部臨床検査部門）

高良 和宏（大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野）

若山 勇紀（国立循環器病研究センター研究所 細胞生物学部）

安藤 康史（国立循環器病研究センター研究所 細胞生物学部）

諸岡 七美（大阪大学 蛋白質研究所 細胞外マトリックス研究室）

